

花壇苗の生産拡大と省力化プラン

伯耆町 遠藤達也（遠藤農園）

はじめに

わたしは伯耆町 で農業をしています。標高は 350mあり、冬期間は 80cmの積雪があります。平成 7 年から花壇苗栽培に取り組み始め、現在は経営の柱となりました。

積雪が多いため、当初は秋作出荷が主体で、冬場の生産ができなかったのですが、平成 16 年、チャレンジプラン支援事業を利用して耐雪型ハウスを導入し、経営規模を 40%拡大することができました。

現在は、年間 35 万鉢を関西方面の市場へ出荷しており、秋のパンジー出荷時には日量 100 ケース（約 4,000 鉢）を出荷します。父親から経営移譲を受けて 19 年。品質も満足のいく出来となり、市場からの評価も得られるようになりました。

自己研鑽のため品評会等には積極的に出品しています。平成 16 年と 23 年には、鳥取県花き品評会において農林水産大臣賞を受賞し、商品性、生産技術の優良品性を認めていただきました。

また、種苗会社、市場と濃密に連絡を取り合って、良品生産、有利販売に努めています。出荷先は 90%以上が市場です。近年は相対の取引が増え、市場との信頼関係が築けてきたと感じています。

なお、平成 18 年、商品のブランド化や経営力強化を目的に、県内花壇苗生産者で組織されたニューアイテム開発部会に入会しました。生産者仲間とともに市場との情報交換や商談会、研修会等を開催し、お互いに切磋琢磨しながら活動してきたことも市場との関係構築や経営改善に役立っていると感じています。

これまでは、ただがむしゃらに頑張ってきましたが、高齢化する両親の負担を減らし、今後も農業を安定して継続できるよう、このたび、用土配合からビニールポットへの土詰め作業を機械化し、更なる規模拡大と省力化を図るため、このプランを作成しました。

1 経営等の現状

(1) 生産、経営の現状（平成 25 年）

作目	面積	生産量
花壇苗	ハウス 14 棟、40a	35 万鉢（春 10 万、夏 5 万、秋 20 万）
メロン	4 a	1,000 kg
水稻	27 a	800 kg

(2) 労働力

続柄	氏名	年齢
本人	遠藤 達也	歳
妻		歳
父		歳
母		歳
雇用	季節雇用	40 人役

(3) 花壇苗の主力品目

春	夏	秋
ペチュニア	ビンカ	パンジー・ビオラ コスモス

* J A 鳥取西部花壇苗部会に所属し、市場は関西方面と
出荷しています。また、 の苗も生産しています。

に

(4) 農業機械および施設状況

機械・施設名	台数・棟数	能力・面積	導入年度
作業場	1 棟	40 m ²	
車庫	1 棟	30 m ²	
倉庫	1 棟	130 m ²	
ビニールハウス	9 棟	28 a	S59～H3
耐雪ハウス	5 棟	12 a	H16、H23
トラクター	1 台	24ps（用土配合用）	H4
ロータリ	1 台	（用土配合用）	H4
フロントローダ	1 台	（用土配合用）	H4
軽トラック	3 台	660cc	H6
防除機	一式		H17
暖房機	1 台		H17
播種機	1 台	30 万粒播種	H17
自動換気装置	1 台		H17

2 課題

(1) 花壇苗生産で重要な土

花壇苗生産では、ポット（鉢）の土づくりが重要です。土が良ければ問題なく栽培できますが、悪い土を使うと水管理（灌水）が難しくなり、病気が出易く、生育が悪くなるため、出荷のロスが多くなります。

最近では大部分の花壇苗生産者が市販の用土を利用していますが、わたしは良品生産のため、自分の栽培に適した自家配合用土にこだわっています。現在は、土の配合をトラクターとローダを使って父と二人体制で作業しています（一人では作業できません）。また、屋外での作業なので、雨が降ると作業ができないなど仕事に支障が起きやすい状態です。

(2) 土詰め作業の重要性

ポット（鉢）に詰める土の量や詰め方が均一になっていないと水管理（灌水）が難しくなります。早く乾いてしまうポットやいつまで経っても乾かないポットが混在すると過湿や乾燥により生育が悪くなり、枯れてしまうなどロスが多くなります。そのため、単純そうに見える土詰め作業ですが、実は熟練技能が必要なので、誰にでも任せることができません。

我が家では、主に両親がこの土詰めを手作業で行っています。

また、土詰め作業をした状態で長時間放置すると土が乾いてしまいます。いったん乾いてしまった土は水分状態が均一にならないため、生育が悪くなります。したがって、土詰め作業と鉢上げ作業を同時進行させることが良品生産につながります。

(3) 規模拡大

春作の早期出荷と生産量の拡大を図るため、10年前に耐雪ハウスを増設しましたが、労働力が限られているため作業が追いつかず、春作の生産量が思うように増やせていません。

3 生産、経営等の目標と効果

(1) 土づくりから土詰め作業までを一体化させ、作業の効率化を図ります
ソイルミキサー（土の攪拌機）とポッティングマシーン（ビニールポットに土を詰める機械）を導入し、土の攪拌からポットの土詰めまでの作業が誰でも（熟練技能や力が無くても）作業できるようにします。

土を均一に、素早く混ぜるために専用のソイルミキサーを導入することで、

- ① 季節や品目によって土の混合割合を変更し、品質向上を図ります。
- ② もみ殻など軽くて安価な材料を混ぜて、土の軽量化を図り、体に負担のかからない土にすることと経費（土代）の削減を図ります。

また、今までのトラクターとローダを使った土づくり作業は、屋外の作業のため雨が降ったら作業できませんでしたが、ソイルミキサーを利用すると屋内作業となるので、天候に関係なく作業できるという強みがあります。

また、ソイルミキサーにポッティングマシーンを直結し、一連の作業として土詰め作業をすることにより鉢上げ作業が早くできるようになります。

(2) 規模拡大

土づくりから土詰め作業の機械化により、春作の増産を図ります。春作は作業期間が短いので、思うように規模拡大できていませんでしたが、鉢上げ作業の効率化により、春作だけでも10万鉢を16万鉢と大幅に増やすことが可能と考えています。

年間の花壇苗生産量は40万鉢を増やします。春作を10→16万鉢を増やし、夏作5→5万鉢と増減無し、秋作は20→19万鉢に少し減らして労働時間の均平化を図ります。

年間労働時間を均平にすることで、これまで7～9月の農繁期だけだった短期雇用を春から秋まで継続雇用にしたいと考えています。継続して仕事をしてもらえば作業にも慣れて効率が良くなると思います。

また、近年、販売先との信頼関係が築けてきたので、増産しても安定した単価が期待できるようになったので、以上のことが実践できれば、出荷量の増加による収入アップが見込まれ、規模拡大につながると思います。

主な品目の作型とハウス利用計画

○：種まき、◎：移植、■：出荷

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
品目												
パンジー・ビオラ							○	◎	—	■		
								○	◎	—	■	
									○	◎	—	■
コスモス							○	◎	—	■		
								○	◎	—	■	
ペチュニア	○	◎	—	■								
		○	◎	—	■							
			○	◎	—	■						
ビンカ		○	◎	—	■							
			○	◎	—	■						
				○	◎	—	■					

- 花壇苗は、ペチュニア等の春作とビンカ等の夏作、パンジー・ビオラ、コスモス等の秋作との組み合わせで、年2～4作のハウス利用が可能。

4 今後の具体的な取り組みと役割分担

事業内容	事業費	H27	H28	連携機関
ソイルミキサーとポッティングマシンの導入	331 万円	◎		県・町・本人
春作を中心に生産量を増やす			○	本人
長期雇用		○		本人
事業費合計	331 万円	331 万円	0 万円	
がんばる農家プラン事業費合計	331 万円	331 万円	0 万円	

* ◎はがんばる農家プラン事業で行うもの。

* がんばる農家プランで行う事業の本人負担 1/2 部分については、スーパーL資金を活用予定。